

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	福岡県みやま市瀬高町下庄480番地3
自己評価作成日	平成23年10月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年11月21日	評価結果確定日	平成23年12月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の通り、のんびり、ゆったりと日常生活を送ってられる事。田のまん中に位置し、空気が良い。散歩に最適。何時でも主治医がかけつけて来てくれる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然豊かな環境の中に建てられ、周りには田園風景が広がり、遠くには山々を望むことができる。その間を時折ローカル列車が走り、その風景を見ながらの散歩が日々行われており、理念通り「のんびり、ゆったり、その人らしく」心ませる時間を過ごしている。新築移転も含め開設10年を向かえ、利用者が安心して暮らしていける運営が行われている。また、利用者の田植えをしたいと言う要望から、ホームの横に田んぼを購入したりと、施設長からは認知症介護に対するの熱い情熱が伝わってくる。職員も利用者に対して家族同様な雰囲気ですぐに接しており、細やかな配慮が感じられる。利用者も日々を穏やかに、健やかに過ごされていて何より安心した表情となっている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼のおり、最後に皆で理念を唱和し、一日が始まり実践している。	事業所理念は、毎朝のミーティングでスタッフ全員唱和し共有している。職員は理念を理解し、利用者の立場に立って日々のケアに心がけているものの、掲示されている理念が全文ではない。また、地域との関わりが解りづらいものになっている。	理念は、事業所が目指すサービスのあり方を示し、常に立ち戻る根本的なものなので、理念の全文を掲げること、地域との関わりも取り入れた理念を掲げることが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭に地域住民の方参加の盆踊り、中学生のボランティア受け入れがなされている。	町内会に加入し、毎年ホーム主催の夏祭りとお敬老の日のお祝いに地域の方々が参加している。また中学生による介護見学等も受け入れ、積極的に地域との交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ「認知症予防教室」の講師として、職員が出向く。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施する事により、地域の要望にも応える事が出来、又、入所者へのサービスの向上につながっている。	運営推進会議は区長、民生委員、老人会長、介護保険課職員、家族代表が参加し、ホーム内での生活の報告をする中で様々な意見を頂いている。その意見を検討しホームでのサービスに反映できるよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは不明な点の相談を受けてもらったり、事業報告をしたり等、密に連絡を取り合っている。	日頃から市町村担当者には報告・連絡・相談等は密に行い、事業所の運営に活かしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、命の危険がない限りしない事を施設内で宣言している。毎朝、拘束しない事を、職員間そろって唱和している。	日中は玄関を施錠していない。身体拘束の弊害については、年1回ホームでの勉強会で学習しており、十分理解しているものの、もしもの場合のために背中に連絡先が縫い付けられ、足に鈴が付けられている利用者が見られる。	利用者の人権を守ることがケアの基本であるとの認識にたち、出て行く気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーをすることで安全確保できるように更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会でもその都度、虐待防止の為の問題を提起し、毎朝、朝礼で虐待の防止を全職員で唱和している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、職員会議において、権利擁護、成年後見制度を再確認する。	ホーム内で勉強会を開き、制度について職員の理解が深まるように機会を設けている。成年後見制度の利用の実績はあるが、パンフレット等が常備されていない。	制度について、利用者・家族等に必要時、情報提供をするためにもパンフレット等の常備が望まれる。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の一週間程度前に契約書を渡し、熟読してもらい、締結の折に説明し、疑問点がないか尋ね、納得してもらったうえで捺印して頂く。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の代表に要望、不満等を直接云える様に代表者の名前、電話番号等を開示し、その要望を当施設へ出してもらう。	玄関には意見箱を設置し、意見収集に取り組んでいる。利用者とは会話の機会を多くし、家族とは面会や電話などで、意見を引き出すように努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は日勤しているため、疑問や要望など日常的に意見交換が出来る。	毎朝ミーティング等の際に意見交換の機会を設けており、また、施設長は職員の要望や相談を受けるように心がけている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日常的に職場に居て、現状把握なされているので、信頼が環境の向上になると思う。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、年齢・身体的障害・経験の未熟に関係なく、「仕事をす」「やる気」だけで採用頂いた。差別なく自由闊達な気風の職場である。	採用にあたっては性別・年齢等での条件は無く、やる気がある方を採用している。配置・教育訓練等においても本人の特性を活かせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症グループホームの倫理綱領にて、毎日職員は個人を尊重して対応する事を学び、又、職員会議にて学ぶ機会を持つようにしている。	県主催の人権学習で学んだ事を職員会議等で伝達研修をし、利用者に対する人権の尊重、人権教育、啓発活動に活かせるよう取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修会などは職員を見極めながら受けてもらい、又、職員会議にて学ぶ機会を持ち、日々努力している。必要と思われる研修は施設内外とも受ける。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設より実習に来られる等、同業者との交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っている事や不安な事等を傾聴し、出来るだけ相談に乗り、安心してサービスの利用を開始できる様努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事や要望等の相談を受け、利用者や家族の方が安心してサービスの利用を開始できる様、信頼関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族の方にとって今の段階で必要なサービスを家族にお尋ねしながら他のサービス等への利用も検討するなどの対応にも努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場におかず、本人様と共に生きる、共に生活の場となる様努め、共に笑顔で過ごせる様支援し、日々努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事等への家族の参加を呼びかけ、何か事ある毎に訪施設をお願いするが、家族により片寄りがみられる。家族会で話し合いするも、成果が上がらず。家族との関係希薄な入所者もある。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域を散歩したり、外出したりする事で、場所を確認し、近所のスーパーに買い物に出かけて馴染みと会ったりする事もできる。	入居時に家族から本人のこれまでの友人関係などを聴取し、関係が継続できるよう働きかけている。行きつけの美容院や散歩途中の花屋さんなどに立ち寄りお茶を頂いたり積極的に支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が気の合う方と仲良く生活される様、又、孤立されない様、支援に努めている。座る席順の工夫、話題の提供、レクレーションへの参加等により関係。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人様の様子など伺う機会を持ち、本人、家族の方より相談を受けたり、経過をフォローするなど支援を行っている。行事等への案内も行う。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや、どの様に暮らしたいのか、意向の把握に努め、困難な方は家族からの情報収集や以前の生活歴などにより、自分らしく生活できる様検討しているが、意向を知る事が難しい。	ご自分の思いを伝えることが困難な方は、出来る限り日常生活の中での表情や言葉、行動から把握に努めているが、一部本人の希望、意向、生活歴の書きもれが見られた。	利用者がその人らしく暮らし続けるためには、利用者一人ひとりの思いや希望、意向等の把握が不可欠なので、書きもれの無いように更なる取り組みに期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居住していた近隣の人等から暮らしの実状はある程度把握できているが、細部まで把握するには困難がある。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に気を配り、個々が有する力を活かしながら、その日の状態を観察しつつ、その人の過ごし方を本人と共に見極める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族、かかりつけ医との連絡を取り合い、職員間で話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で利用者・家族の思いや意見を聞き、月に1回から2回ケース会議を開いて職員間で話し合い、利用者や家族が望む介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に応じて、日々の状況の変化を職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族の状況把握は行えているが、ニーズの変化に応じて柔軟な多種サービスはまだ不十分だと考える。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二月に一度、運営推進会議を開いて地域の方々にも、ご意見・ご理解を頂き、御協力して頂いている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報交換を密にする事で、医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受ける事が出来ている。又、夜間における医療への対応も出来ている。	本人や家族の希望に応じて対応している。通院時に家族の支援が困難である場合は、職員が受診支援を行っている。受診結果等必要な情報については、家族へ連絡を取り、情報を共有している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員より、利用者様の疾病について指導を受けたり、相談する事で安心した支援を実施出来ている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族・病院と連絡を取り合い、早期退院に向けて、常に備えて連携した関係づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と連絡を取り合い、職員間でもケース会議を実施している事で方針を共有し、チーム支援で取り組む事が出来ている。	入居時に家族と利用者に説明し、同意を貰っている。また、入居後は状態の変化に応じて、主治医や利用者・家族と話し合いながら介護の方針を決めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等の備えとして、施設の看護師より応急処置等の指導を受けたり、外部講習へ参加する事で実践力を身につける事が出来ている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度の避難訓練を実施しており、定期的な消防点検も行っている。	災害マニュアル、消防計画書も作成されており、消防署と連携し、年2回の避難訓練を行っているが、避難場所が周知されていない。	災害時、確実に避難誘導できるように全職員に避難場所の周知徹底をするるとともに、非常用食料や備品等の準備をされることを期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心や権利を侵害されることなく、尊厳を保ちプライバシーを損ねる事がない様に、常に言動や対応に留意しているが、まだ十分だとは思えない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを確保するよう、特にトイレや入浴時の声かけ等には配慮している。また、職員は“利用者は人生の先輩である”と認識しており、人格や自尊心を傷つけないよう対応に配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や気持ちを表出させるのが難しく、納得して日々過ごされている方々は少ない様に思える。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、支援実施しているが、本人の希望にそっての支援となると、充分とは言えない。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪に関しては、定期的に理容師を施設に読んでカットを行っている。本人からの要望に応じて近隣の美容室への利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に「いただきます」の挨拶をして頂いている。作業能力のある方には、テーブル拭きや茶碗拭き、片付け等を職員と一緒にしている。	利用者は盛り付けや食器の片付けを職員と一緒にできる範囲で行っており、和やかな雰囲気ですべてをしているが、一部の職員のみ一緒に食事をしている。	利用者と職員との関係作りの点から、利用者と色々な話をしながら同じ食事をしたり、さりげなく支援することに期待したい。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を表にてチェックするとともに、随時声かけをし、摂取を促している。又、一人ひとりのペースに合わせ摂取して頂いている。個人的に水分摂取量を計測している人もいる。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯に関しては、薬用品を使用し洗浄を行い、又、自力にて施行できる利用者については見守りを行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄前の行動をチェックしたり、水分や食事後の時間を見計らい、トイレへの声かけをし、トイレ誘導を行い、自立にての排泄に向けた支援を行っている。	記録表を用いて個々の排泄時間の記録をし、間隔などを把握してトイレ誘導を行うことで、排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しや、日常生活の中で体操やレクリエーション等の運動を取り入れている。また、食事前には口腔体操を実施し、嚥下や消化につながるよう支援している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週三回(火・木・土)の入浴を実施しているが、利用者様からの要望があれば個々に応じた入浴を支援している。又、入浴前のバスタブチェック等を行い、体調チェックを実施している。	基本は週3回と決めてはいるが、希望があれば一人ひとりに応じた入浴が可能である。入浴時のコミュニケーションを大切に、同性介助で羞恥心にも配慮し、時間をかけて優しく支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠をチェックするとともに、状況により仮眠を促している。又、照明の調整を行い、安眠や休息の支援をしている。光の調節。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の説明を受け、職員に申し送りをを行い、服用時は職員が開封し、見守りの上服用して頂いている。又、職員が連携し情報交換をし、症状の変化の確認に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や片付け等の手伝いをして頂いたり、レクリエーション等において、一人ひとりの生活歴や経験等を考慮して支援している。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望や体調等によって散歩等の外出を支援している。又、家族の方との外出・外泊等を支援している。	ホーム近隣の散歩や買い物など日常的に楽しんで頂けるように努めている。毎月ドライブに出かけており、コスモスの花を見に出かける等、季節感を味わい気分転換ができるように図られている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所に管理しているが、必要に応じて、ご本人・ご家族に説明し使用している。担当介護者 経理 施設長、経由で小遣い帳を管理		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員により家族と連絡を取りながら、安心して暮らして頂ける様、支援している。対象者は少ないが、家族と電話で会話することもある。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活に困難をきたさぬ様、トイレ・居室等に目印を付けている。また、時間によって、照明調節をしたり、窓を開け外気を取り入れたり空調調節を行っている。	トイレ・食堂はゆったりとしたスペースが確保されている。共同スペースは、天窓から優しい陽光が入り、行事の際の写真を貼ったり、利用者の作品を飾る等、自分の家のように居心地の良い空間であるよう配慮している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分の居場所を確保できる様、リビングに誘導したり、気の合った利用者様同士、隣になるように椅子の配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの写真や花を飾ったり、希望があれば相談し、必要な品をお持ちいただいたり、安らいで頂けるよう工夫している。	入居時に、使い慣れた馴染みの物を持ち込まれたり、また、昔の写真や思い出のある物を飾る等、本人が居心地良く安心して過ごせるように工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、掃除のお手伝い等に使いやすい用具等を用意している。又、歩行や移動の障害にならない様に、家具・備品の配置を考慮している。		